

乳がん高度検診・治療センター

NEW—すNo.106

持続型G-CSF製剤が自動投与されるデバイスにより ドースデンス化学療法中の患者さんの通院負担が軽減！

乳がんに対するドースデンス（dose dense）化学療法については、この乳がんセンターNEW—すNo.84でも紹介しました。ドースデンス化学療法ではジーラスタ®（一般名：ペグフィルグラスチム）投与が必要ですが、このたびジーラスタ®の自動投与デバイスであるジーラスタ®皮下注3.6mgボディーポッドが発売され当院でも採用されました。ドースデンス化学療法のおさらいとともに今回この製剤をテーマとして取り上げます。

＊ ドースデンス化学療法とは

乳がん術前・術後の化学療法は従来3週おきになされていましたが、最近2週おきに投与するドースデンス化学療法が普及しつつあります。投与間隔を短くすることにより抗がん作用の増強が期待されるだけでなく、短期間に化学療法が終了するという利点もあります。ただ、抗がん剤の副作用である発熱性好中球減少症を予防する目的で、ジーラスタ®という持続型G-CSF（顆粒球コロニー刺激因子）＊製剤を使用する必要がありますが、患者さんは抗がん剤投与後24時間以降に来院せねばなりません。

＊G-CSF（顆粒球コロニー刺激因子）：血液中の好中球の数を増やし、働きを強め、感染症にかかる危険性を低下させる。

ジーラスタ®皮下注3.6mgボディーポッド

このたび開発されたジーラスタ®皮下注3.6mgボディーポッドは右図のような構造で、穿刺部と、薬液が充填された専用カートリッジを含む本体からなります。

本剤は、薬液が約27時間後に自動で投与される仕組みとなっており、投与終了後には表示ランプで示されますので、患者さんが翌日自宅でデバイスを取り外すことができます。



《ジーラスタ®皮下注3.6mgボディーポッド》

おへそを挟んでそれぞれ5cm以上横に離れた腹部に、左のカテーテル部分を皮下に穿刺し固定、また右の専用カートリッジを含む本体を腹壁に固定します。

本製剤をがん化学療法と同日に装着することでジーラスタ®投与のための通院が不要となりますので、遠方にお住まいであったり、仕事などの都合で頻回の通院が困難な患者さんにとってひとつの選択肢となり、朗報と言えるでしょう。

乳腺外科 稲治英生
化学療法センター 亀友美

市立貝塚病院 TEL：072-422-5865